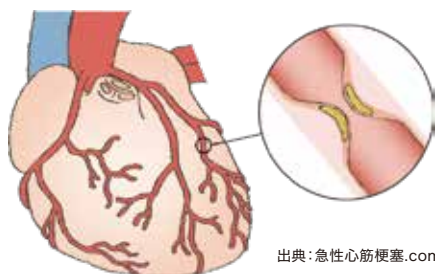


原因と症状

狭心症・ 心筋梗塞とは

高血圧や脂質異常症、糖尿病や喫煙が原因で、心臓に血液を供給する血管である「冠動脈」の血流が悪くなる状態です。

狭心症は、冠動脈が狭くなっているが、まだ血流がある状態で、心筋梗塞では、冠動脈が閉塞し、血流が途絶えた状態です。特に心筋梗塞は日本人の代表的な死因の一つでもあり、予防が大切です。



狭心症の症状は短時間

運動時や坂道などで胸の痛みや圧迫感が出現します。症状は2～3分、長くても15分です。

心筋梗塞の症状は持続する

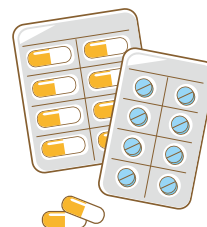
締め付けるような強い胸痛が急に出現します。背中や左肩、あご、みぞおちの付近が痛む場合もあります。また、冷や汗や吐き気を伴う場合もあります。15分以上、このような痛みが続くときはすぐに救急車を呼びましょう。

内科治療

薬物療法と カテーテル治療

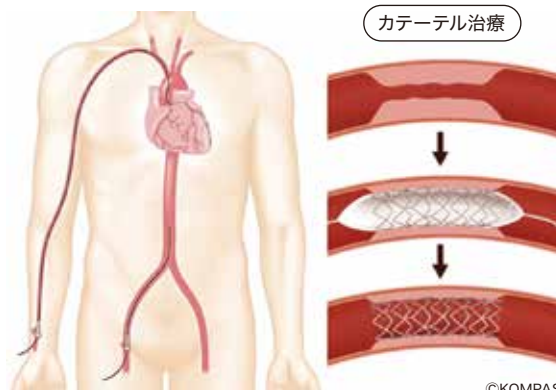
薬物療法

心臓の負担を抑える薬、血液を固まりにくくにする薬、血管を広げる薬などが用いられます。また、血圧やコレステロール、糖尿病に対する薬をきちんと内服し、動脈硬化の進行を予防することも重要です。



カテーテル治療

血管の狭くなった箇所を、風船やステントと呼ばれる金網状の筒で広げて血液の流れを改善させる治療です。局所麻酔後、カテーテルと呼ばれる医療用の細い管を、手首や足の付け根の血管に入れ、心臓まで挿入し治療を行います。

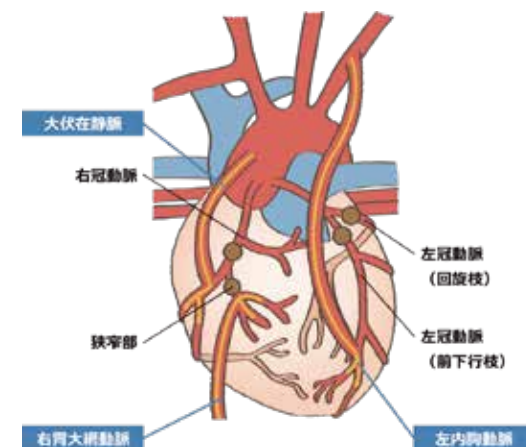


「慶應義塾大学病院KOMPASから許可を得て転載」

外科治療

冠動脈バイパス手術

全身麻酔で胸を開いて行う外科手術です。体内の他の血管を用いて、狭くなった冠動脈の部位を迂回(バイパス)し、血液を心臓の筋肉へ送るようにします。通常、カテーテルでは治療が困難な場合に手術が必要となります。



出典:急性心筋梗塞.com

手術後はリハビリを行い退院となります。外科手術を行った場合も、再発予防のため、生活習慣を整え、きちんと薬を飲むことが重要です。

